



たてやま おらがんまつち



館山市船形地区 ねぎし 根岸区

船の形をした船形山の麓に広がる船形地区



地域の紹介

船形地区は館山市の北部に位置し、明治二十二年に船形村と川名村が合併してできた地区です。昔の名残が祭礼や町の風習の中に今でもたくさん引き継がれています。船形のシンボリック存在の崖観音と、昔から船形地区の祭の中心となってきた諏訪神社は、船の形に見える船形山の中腹にあります。

第三種漁港(時化の時に避泊可能な漁港)に指定されています。また「房州うちわ」は日本三大うちわの一つに数えられています。

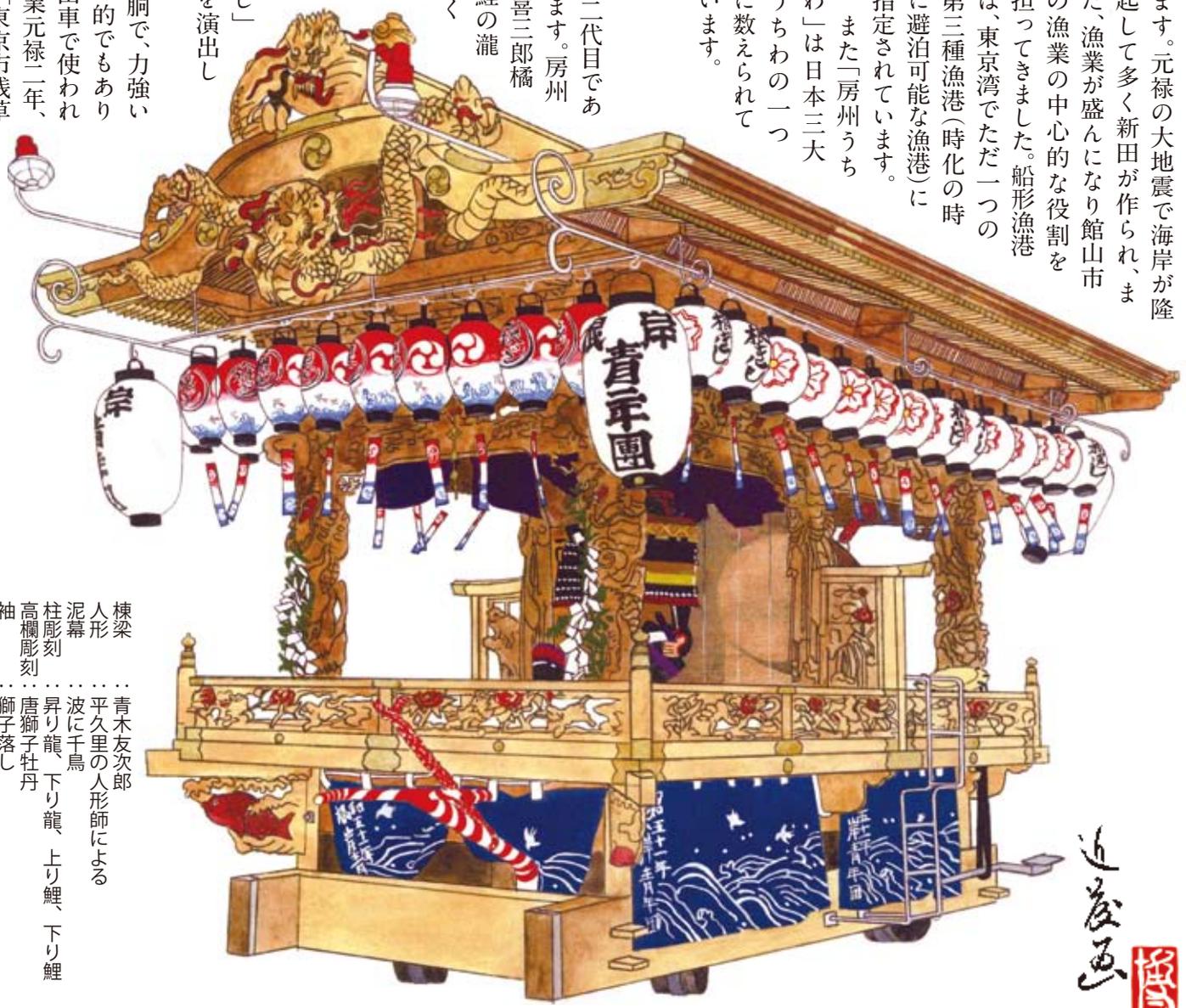
また「房州うちわ」は日本三大うちわの一つに数えられています。

自慢の屋台

根岸区の誇りである屋台は二代目であり、大正八年から出祭しています。房州の彫工、後藤滝治義光と後藤喜三郎橘義信による昇り龍、下り龍、鯉の瀧昇りや唐獅子と牡丹などの多くの彫物が所狭しと施されています。正面破風の龍は、日が暮れるとライトアップされて迫力が増し、自慢の屋台を一段と引き立てます。提灯には、桜の絵と「根ぎし」の文字が入り、独特の雰囲気を出しています。

屋台後部の大太鼓は二尺長胴で、力強い太鼓の打ち手は観客の注目の的でもあります。また、現在、縄入れの小山車が使われている一尺六寸の太鼓は、創業元禄二年、現在も続いている老舗である「東京市浅草亀岡町・南部屋五郎衛門」の銘があり、根岸の屋台の歴史に彩りを添える存在です。

ます。元禄の大地震で海岸が隆起して多く新田が作られ、また、漁業が盛んになり館山市の漁業の中心的な役割を担ってきました。船形漁港は、東京湾でただ一つの



- 棟梁 青木友次郎
- 人形 平久里の人形師による
- 泥幕 波に千鳥
- 柱彫刻 昇り龍、下り龍、上り鯉、下り鯉
- 高欄彫刻 唐獅子牡丹
- 袖 獅子落し
- 彫刻師 後藤滝治義光、後藤喜三郎橘義信
- 提灯 桜と根ぎし
- 大太鼓 房州富浦南無谷太鼓製造所 石倉政之
- 半天 背に桜 襟に根岸

道後画